政所茶復興に向けた取り組み

政所茶生産振興会
理事　山形 蓮

自己紹介

山形 蓮　（S61 年生・膳所高 H17 年卒）

大津市（旧志賀町）の新興住宅地、非農家育ち

コーヒー好き、日本茶は苦手

滋賀県立大 地域文化学科にて

県内各地の農山村でフィールドワークに熱中

東日本大震災で人生観が変わる

県大生時代　地域活動に没頭

入学当初「地元のいいところ」を聞かれ答えられなかった。

「地域とは何か」を知りたくてフィールドワークに没頭。

お年寄りが語る、自分の知らない時代の知らない生き方、哲学に惹かれる。

院生時代　東北被災地へ

・宮城県南三陸町の漁村に

１年半ほど通い

調査と復興支援を行う

・「地域」に生きることに

ついて再考。自分の足元の

おぼつかなさに不安を覚える

私も地に足をつけて生きてみたい。

「通う」のではなく、「暮らし」てみたい。

政所茶との出会い

2012 年　政所茶に出会う

先祖代々守ってきた
茶畑を絶やしたくない！

何か自分にも
役に立てることがあれば…！

「通う」から「暮らす」へ

仲間と週末にお茶づくりをはじめる

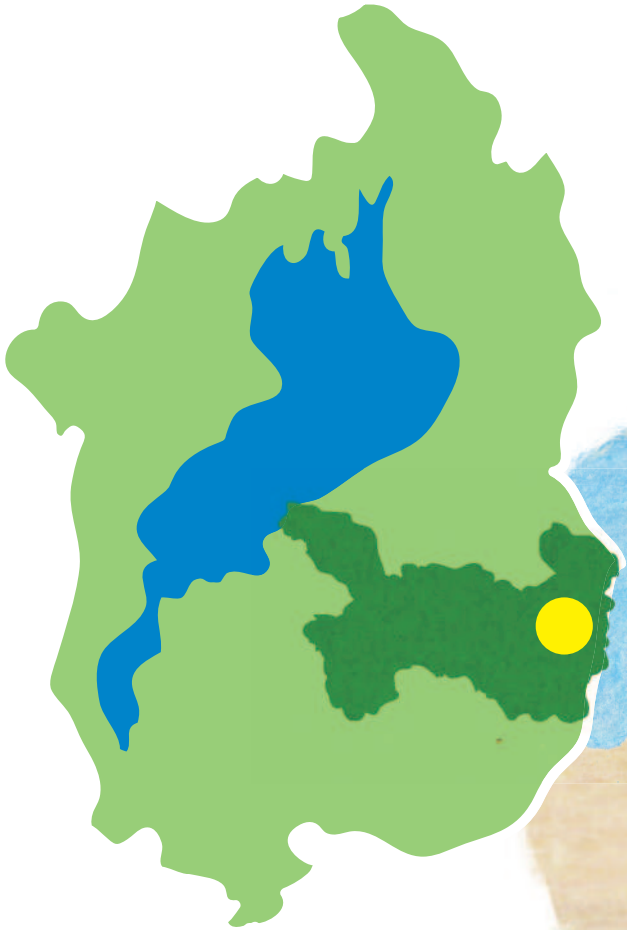
↓

政所茶の魅力や可能性に気づく
「通っているだけじゃもったいない！」

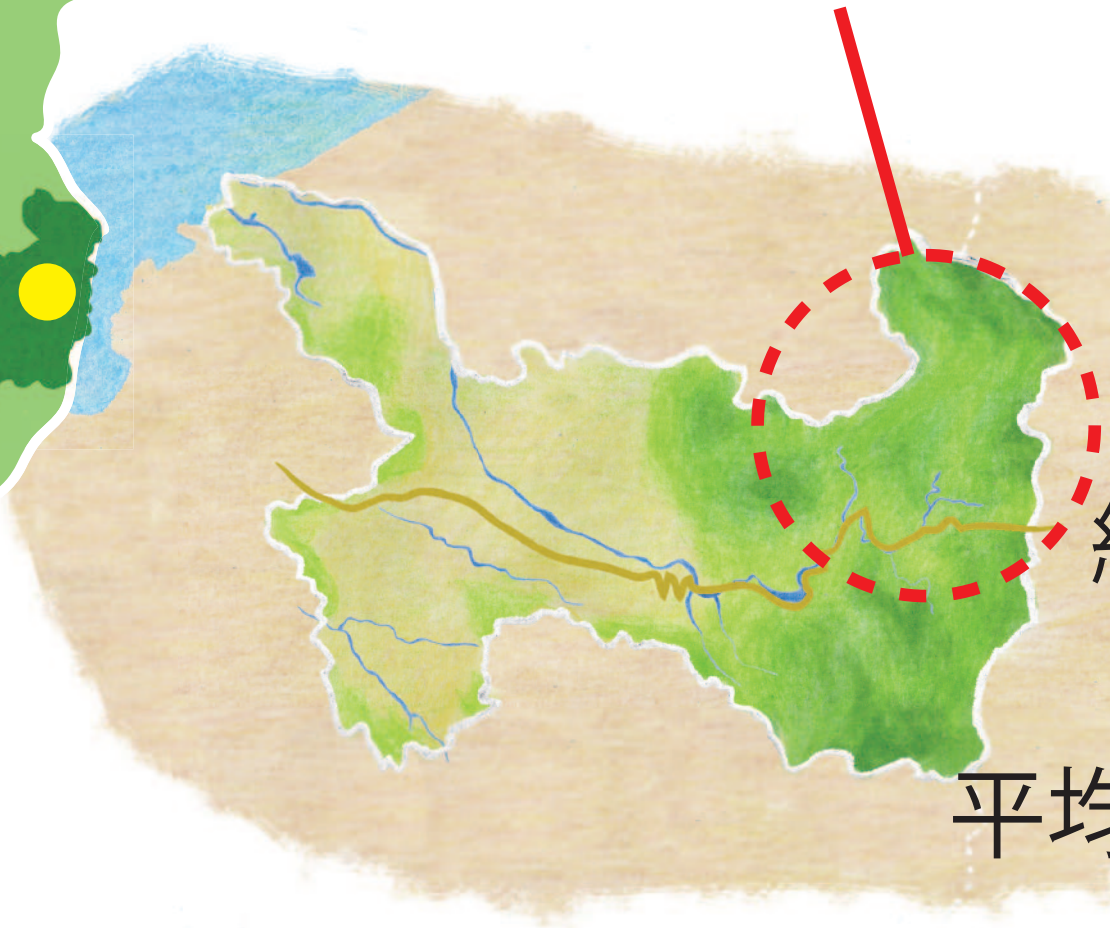
↓

2014年
地域おこし協力隊として政所へ移住

政所茶とは



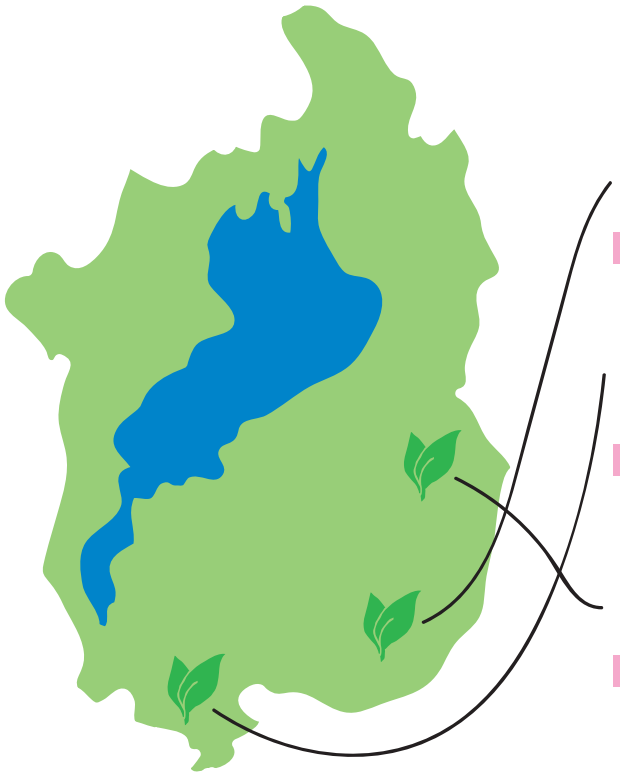
東近江市
奥永源寺地域＝政所茶産地



7 町
約 200 世帯
約 400 人
平均年齢 72 歳

近江茶について

日本茶の発祥の地とも言われ、歴史の古い近江茶



土山茶（甲賀市土山町周辺）

朝宮茶（甲賀市信楽町周辺）

政所茶（東近江市政所町周辺）

甲賀市産の茶（土山・朝宮）が県産茶の 90％を占める。政所茶は「幻の銘茶」と言われ久しい。

茶業の近代化と政所茶

1950 年代　茶の品種改良が本格化

1970 年代　高度経済成長期により需要拡大

→在来種から改良品種への転換が急速に。

品質の画一化・大量生産が可能に。

（茶畑の畝化、作業の機械化が進む）

→うまみを重視した茶づくりのため化学肥料の多量施肥が行われる

茶業の近代化と政所茶

近代化の波に乗らなかったため
市場から消え、幻の茶と言わる

- 生産量　約 1t（最盛期の約 1/30）
- 生産者　70 歳以上が 60％
- 生産コスト ＞ 販売価格
- 生産者組織がない
- 専業農家数が戦後以降 0 件

政所茶の特徴

全国で２％以下となった在来種を守る産地

10年先の
豊かな土づくり

手間を惜しまない仕事

水源を守る
暮らし方

美しさの
ある暮らし

幻と言われるけど実は…

歴史　生産特性

地域の特産品としては王様級

ストーリー　地域との結びつき

- 守り続ける**無農薬、無化学肥料栽培**
- **自然環境と共存**する茶畑景観
- こだわりが光る**テロワール**を大切した茶づくり

今の時代だからこそ共感を得られるお茶

地域に風穴をあける

地域資源そのものに手を加えるのではなく、違う角度からの視点や新しい空気を送ることで化学反応が起きることを目指す。

よそ者だからできること。

×大学生

（滋賀県立大学
政所茶レン茶゛ー）

2012 年～ 継続中

自主的な活動として、茶畑での茶生産から販売までを実践。

＝学生ブランド

＝よそ者に対する
信頼感の蓄積

＝外への発信力、柔軟性

× 高校生

（八日市南高校）
（八幡商業高校）

2015 年～ 継続中

実習にて玉露の復活、メニュー開発、イベントでの販売実践

＝“若さ” という存在

＝地元の学校ならではの注目度

＝実習としての継続性

× 週末農業

2015 年～ 継続中

近郊の社会人メンバーで茶畑を管理。体験イベントなど実施

＝生産の担い手

＝政所茶との出会いのきっかけ提供

茶摘みには全国からのべ100人ほど参加

茶畑作業ボランディアから生産者へ

× 海外

× 地元

2017 年産地としては初めての生産者組合を設立。情報のプラットフォームに。

地域資源のポテンシャルに

最大限の尊重と信頼を。

光の当て方、伝え方

アイディアで可能性を再発見。

お茶とともに暮らす
日本茶の原風景が
次の世代にも続くよ
うに…